



# 学校法人近畿大学 環境報告書 2021



# SDGsにむけた本学の取り組みについて

『持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）』とは、国連により2001年に策定された『ミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）』の後継として、2015年の国連サミットで採択された「2030年までに持続可能でよりよい正解を目指す国際目標」です。貧困、教育、エネルギー、経済成長、気候変動など17分野のゴールと、169の具体的なターゲットで構成されているこの目標は、地球上の「誰一人取り残さない社会（Leave No One Behind）」ことを誓っています。既に周知のようにわが国でも産・官・学、あらゆる組織において、関連した様々な取組が行われており、2025年に開催される大阪・関西万博でもSDGs達成への貢献が目標の1つに掲げられています。



近畿大学 学長 細井美彦

現在、世界は、気候変動による異常気象や新型コロナウイルス感染症拡大、また各国におけるエネルギーや食糧の安定確保に関する不安など、多くの困難に向き合っています。人類がこの困難に打ち克ち、今後も存続し続けるためにも、私たちひとりひとりがSDGsの17のゴールを身近に感じ、自分なりに可能な取組を行うことが不可欠です。

近畿大学は、医学部を含む15学部49学科を擁する総合大学であり、養殖漁業、バイオコークス、環境・まちづくり、クリーンエネルギー、次世代農業など数多くの研究や社会貢献を行ってきました。また、国際社会に対応できるグローバル人材や、Society5.0の実現に向けた先端IT人材の育成も目指しております。

これより、さらなる次世代の教育・研究機関を目指す近畿大学は、学内外の組織、あるいは学生も含めた個人のSDGsの目標達成に関連する取組みを積極的に支援することを宣言します。具体的には、学内におけるSDGsのシーズを整理し、ゴール達成に利する研究開発を支援し、これらから生まれる活動成果を社会に向けて積極的に発信・展開していく所存です。皆さまの温かいご理解とご支援お願い申し上げます。

## 救急救命士に静脈路確保等の実習指導 教員が災害協定、支援活動の一環として実施



2022年2月に生物理工学部は、那賀消防組合と災害時における官民一体となった協力体制確保の一環として、「災害時における各種活動の支援に関する協定」を締結しました。

救急救命士の静脈路確保技術等を向上させることにより、更に多くの患者の救命につながることから、本件協定に基づく具体的な取組として、本学部医用工学科教員が那賀消防組合の救急救命士に対し、人体と同じ感触になるリアル感をもった人体パーツを使用した静脈路確保等の実習指導を行いました。



## 産官学連携でイチゴを栽培「なら近大農法」で栽培した近大ICTイチゴを初収穫



2022年1月に農学部は、奈良県食と農の振興部、株式会社アグリスタ、いちごの縁Fとの産官学連携により、学内のICT設置温室で栽培した「近大ICTイチゴ」を初収穫しました。

農学部は、少子高齢化に伴う農業従事者の減少、「休耕地」や「耕作放棄地」の増加といった社会問題を解決するため、奈良県と連携して「なら近大農法（ICT農法）」の確立をめざして取り組んでいます。なら近大農法を利用することで、農作物の栽培に必要な温度調整など管理機能にICTを導入し、収穫量の増加と品質の安定化へ繋がることが期待されます。



## 新型コロナウイルス対策の換気によるPM2.5や花粉等の被害を抑制「静電ブラインド」の試験販売を開始



薬学総合研究所と農学部、株式会社園田製作所、トワロン株式会社、アース環境サービス株式会社、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所は新型コロナウイルス感染症対策で換気の高重要性が高まるなか、PM2.5や花粉、昆虫などが侵入することを抑制する「静電ブラインド」を開発し、2021年5月から試験的に販売を開始しました。



## 産業理工学部×専門学校九州テクノカレッジ「協定校編入学試験に関する協定」を締結



産業理工学部と学校法人友幸学園専門学校九州テクノカレッジは2021年5月に協定校編入学試験に関する協定を締結しました。

産業理工学部が、協定を結んだ専門学校の生徒を対象に3年次への編入学を受け入れることで、幅広い学びの機会を提供することが可能になりました。

産業理工学部と九州テクノカレッジが編入学試験に関する協定を締結することによって、九州テクノカレッジの生徒に編入学試験の受験資格が与えられるほか、産業理工学部において特別模擬授業を実施するなどの連携事業も予定しており、大学と専門学校が連携して文系理系両方の人材育成に取り組めます。



## 古着ファッションショーでジェンダーレスや多様性について考えるイベントを開催



2021年12月に「SDGs WEEK in KINDAI 2021～近代（近大）から未来へ～」と題して、SDGsをテーマにしたイベントを開催しました。本イベントは養殖漁業、次世代農業、環境保全、クリーンエネルギー、まちづくりなどさまざまな分野で社会貢献を行っている近畿大学の強みをSDGs達成にどのように生かしていくのか、学生、教職員がともに考える機会として2018年から毎年開催しており、4回目となる2021年では、学生企画の古着ファッションショー「Genderless Fashion\_Love Yourself」を行いました。

学生が自分たちで回収した古着を使用することで、ジェンダーレス、多様性といった社会問題について理解を深めることを目的としています。

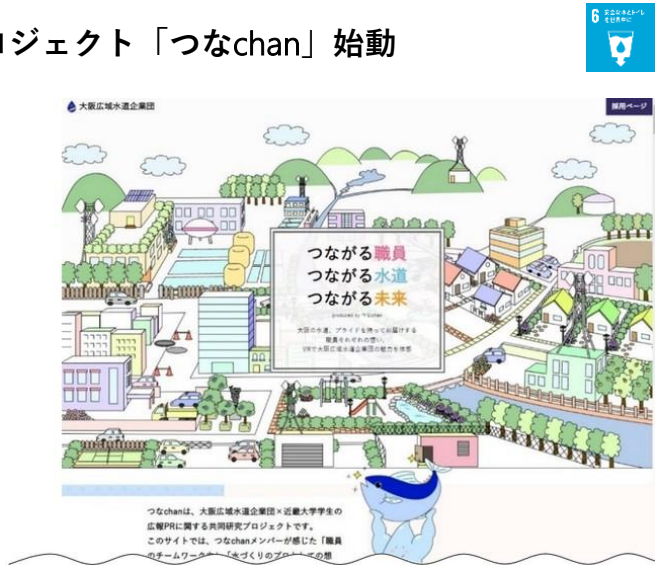




## 近畿大学×大阪広域水道企業団 共同研究プロジェクト「つなchan」始動

2021年10月に近畿大学と大阪広域水道企業団は、新PRコンテンツ等に関する共同研究プロジェクト「つなchan」を始動しました。本共同研究は、総合社会学部 総合社会学科 社会・マスメディア系専攻の岡本健 准教授並びに同ゼミ所属の学生と大阪広域水道企業団がコラボレーションし、企業団の新たなPRコンテンツの開発や効果的なイベントの実施方法について、調査・研究を行うものです。

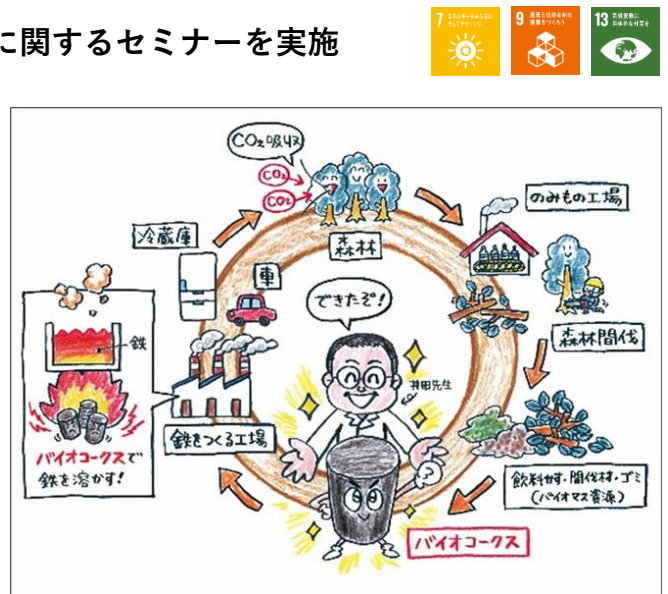
企業団ではこれまで、浄水場見学や小学校への出前授業、「利き水会」のほか、府内の各種イベントでのブース出展などを通じて広報活動を行ってきました。企業団の採用広報の一環として、「職員のチームワーク力」「水づくりのプロとしての想い」「水道を未来まで守り続けるという使命感」を体感できるVRコンテンツを制作し、新サイトを2022年4月1日に開設・公開しました。



## バイオコークス研究所 再生可能エネルギーに関するセミナーを実施

バイオコークス研究所は2021年7月に社会貢献活動の一環として小学校高学年、中学生を対象とした再生可能エネルギーに関する科学セミナーを実施しました。実験と紙芝居を交えながら解説するほか、研究施設内でバイオコークスが製造される過程等を実際に見学していただきました。

バイオコークスは、バイオコークス研究所所長の井田民男 教授が、2005年に石炭コークスの代替燃料として、植物由来の原料を乾燥・加圧・圧縮して開発した新しい木質バイオマス固形燃料です。植物由来のため、CO2排出量がゼロ計算され、環境にやさしい新エネルギーとして注目されており、すでに国内で商用プラントが稼働し、鋳物用コークスの代替燃料として試験使用されています。



## ヘルスケア分野の新事業ビジネスプランを創出する「カレッジラボ」を開催



2021年7月に堺市、堺市健康寿命延伸産業コンソーシアム（事務局：堺市）、医学部が連携し、企業が提示するヘルスケア分野に関するビジネステーマを基に、学生の自由なアイデアとディスカッションにより新たなサービス等に関するプランを作成し、企業に提案する「カレッジラボ」を実施しました。この取組は、堺市が大阪府と進める、泉北ニュータウン地域を重点地域としたスマートシティ推進プロジェクトである

「SMART SENBOKU PROJECT」の一環で行うものです。医学部と連携し、1年次の授業の一環として実施するもので、産学公民の連携によるヘルスケア分野における新たなサービスの創出と、医学部生の課題解決力の育成をめざします。



## スーパー「ベイシア」が小売業界初、産学連携で「近大生まれのブリヒラ」を本格販売開始



2021年6月に株式会社ベイシアが近畿大学が開発したブリとヒラマサの交雑種「ブリヒラ」を、近大生まれとしては小売で国内唯一、ベイシア全店舗で販売しました（ベイシアマートを除く）。関連会社である株式会社アーマリン近大を介して種苗として販売され、養殖業者が年月をかけて成魚まで育てた後、ベイシアが販売を担当しました。

人工種苗による「養殖」は天然資源を消費することなく、必要な量を一定の品質で供給することができることから、水産研究所は古くから持続可能な食料供給の方法として研究しています。ブリ類のハイブリッド種の本格的な種苗生産は世界でも近畿大学だけが行っており、大手量販店と大学、生産者が協力してハイブリット種の本格生産を数年がかりで実現したことは世界初の事例となります。





## 猿沢池や周辺環境を調査・保全する「ひとななプロジェクト」始動



農学部環境管理学科准教授の北川 忠生・北川研究室の学生は2021年度から任意団体「灯と奈菜（ひとなな）」を立ち上げ、「ひとななプロジェクト」と称して、奈良公園にある猿沢池やその周辺の環境調査・保全に取り組んでいます。

今回、プロジェクトの主な取り組みとして、興福寺・奈良県（奈良公園園舎・奈良公園管理事務所）と連携して、2021年4月に生物の採集調査を行い、捕獲魚類から在来種と外来種を選別して、在来種のみを猿沢池に戻すほか、水質改善を目的とした在来種の棲み処となる瓦漁礁の設置と池の美化活動（ゴミ拾い）も併せて行いました。

水生生物調査を複数回実施し、比較的多くの在来の生物が生息していることが明らかとなりました。一方で、従来から知られていたコイやミシシippアカミミガメなどの外来生物に加えて、カダヤシという特定外来生物の淡水魚が繁殖していることが明らかとなりました。



## 学校法人近畿大学ガバナンスコードの策定



2022年3月に多様な学校を設置する本法人の実態に鑑み、近畿大学が加盟する日本私立大学協会の方針「それぞれの私立大学の実情に応じて、公共性と自主性を基本とした自律的なガバナンス・コードを制定されたい。」に従って、法人として一貫したガバナンス・コードである「学校法人近畿大学ガバナンス・コード」を策定しました。

本法人は、私立学校の有する公共性に鑑み、健全な学校運営について、学生等、保護者、教職員のみならず広く社会からの信頼を得られるよう、説明責任を果たすとともに、透明性の確保に努めています。

